

## 東奥春秋

2017・2・8

画面手前から奥に向

かって延びる一本の

道。「行く道」と題した

作品はもしかしたら、

版画家自身の人生を描

いたのではないか。国

画会会員の熊谷吾良さん（弘前）

が1月24日に他界したことを知

り、2015年秋、あおもり国展

で見た作品が頭

に浮かんだ。

熊谷さんは、

和紙、ばれん、水性絵の具を使っ

て摺る木版画を「正統的木版画」

と呼んだ。青森市で開いた「版画

を楽しむ仲間たち」展では15、16

年と2年続けて実演を披露。60年

に及ぶ版画人生で培った彫り・摺

りの技法、知識を惜しまずに教え

た。かつて版画工房や大学で指導

した教育者としての情熱を、晩年

まで持ち続けた。享年85。

（こ）2週間で、文化関係者の悲

報を続けて耳にした。一戸れいさ

んは詩人・一戸謙三の長女。弘前

の施設で療養しながら詩を書き、

90歳近くまで東奥詩壇に投稿して

くれた。川柳の矢本大雪さん（弘

前）は東奥柳壇や県川柳大会の選

者を務め、俳句も作った。「千空

歳時記」など編

著、著書も多い。

リング農家で

## 文化の灯

ねぶた絵師、舞台美術家の鈴木秀

次さん（弘前）は昨年12月、矢本

さんと同じ60代で天国へ旅立っ

た。1993年夏、岩木山麓でツ

ルのねぶたが宙を舞った都はるみ

コンサートの仕掛け人だった。

本県に文化・芸術の灯をともし

た人たち。人材は宝なのだから

ためて思い知らされる。（ん）